

教科(科目)	芸術 (美術 I)	単位数	2単位	学年(コース)	1年次
使用教科書	日本文教出版「高校生の美術1」				
副教材等	なし				

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくむとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

二年次、三年次に進んでから美術系学校への進学を希望する生徒が毎年何人かいるため、美術系進学を希望する生徒とそうでない生徒、両方の卒業後に役立つ内容を学習します

- ① 造形の要素の働きを理解し、必要な技能を身に付け、意図に応じて表現することを目指す
- ② 美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めます
- ③ 天津神社、相馬御風訪問により、地域の美術や文化のよさや美しさを知り、創造的な活動をする心情を育みます

3 評価の観点の趣旨

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事業を捉える造形的な視点について理解を深めている ・創造的な美術の制限をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価方法	作品の分析 (デッサン、スケッチ、平面構成、色彩構成での表現の観察、絵画・彫刻での表現の観察) ワークシートなどから評価します	作品の分析 (デザインでの表現の観察、絵画・彫刻での表現の観察) などから評価します	作品の分析、ワークシートなどから評価します
	各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)		評価の観点 評価方法
4	身近なものを描こう	木を描く	円柱の基本的な描画方法について学習した後、玄関前の桜の木を描く	10	c 作品からの見取り
5	色彩の学習	24色相環をつくる	色彩の仕組みを学習し、三原色カラーを使って24色相環をつくる	6	a 作品からの見取り
6	生活を彩る模様	ウィリアム・モリスの壁紙など	生活を彩る仕組みを学習し、ワークシートに記入する	2	a ワークシート(記述の点検)
6	模様をデザインする	消しゴムはんこ、お弁当包み	用途に合う楽しく美しい模様のデザインを考え、消しゴムハンコを制作し、お弁当包みの模様にする	8	b 作品からの見取り
7 9	私の見つけた風景	天津神社のスケッチ	身近な風景からよさや美しさを感じ取り、視点や構図を工夫して表現する	8	c 作品からの見取り
10	日本美術の魅力を味わう	洛中洛外図 屏風他、御風宅	日本美術の伝統的な表現や鑑賞の方法などから独自の美意識や創造性を理解する	4	a ワークシート(記述の点検)
	版がで表す	スチレン版画	スチレンボードを使って回転版画をつくる	10	b 作品からの見取り
11	地元のよさを宣伝しよう		自分の地元のポスターをつくる	10	b 作品からの見取り
12	祈りの形	日本の仏像	仏像を鑑賞し、ワークシートに記入する	2	a ワークシート(記述の点検)
1 2 3	生命感や存在感のある彫刻をつくる	彫刻用粘土、煮干し	煮干しをいろいろな角度からスケッチし、それを見ながら彫刻用粘土を彫る	10	b 作品からの見取り

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

授業ごとの作品やワークシートが課題であり、提出物となります。毎時間の授業をコツコツとこなしていけば自然とクリアできるでしょう。作品制作にあたって迷ったり、どう進めてよいかわからなくなった時は相談してください。

7 担当者からの一言

美術は主体的に学ぶ部分が多い教科です。毎回「こういうことをやろう」という主題は出しますが、「このように作るのが正しい」という答えが用意されているわけではありません。自分が表現したいものや、表現方法など、自分の気持ちとよく相談して取り組んでみて下さい。

(担当：本名)